

小学校と地域社会を結びつける 協同学習の実践

茨城大学人文科学研究科
つくば市立田井小学校
茨城大学人文学部

中村 泰
岡野 正人
鈴木 栄幸

本日の内容

- 交流学習における地域社会の持つ可能性
- 2006年度に行った交流実践の検討
- 地域社会と交流するためのデザイン上の二つのポイント
- 今年度**KB**を使った交流学習の報告と評価
- まとめ・今後の研究

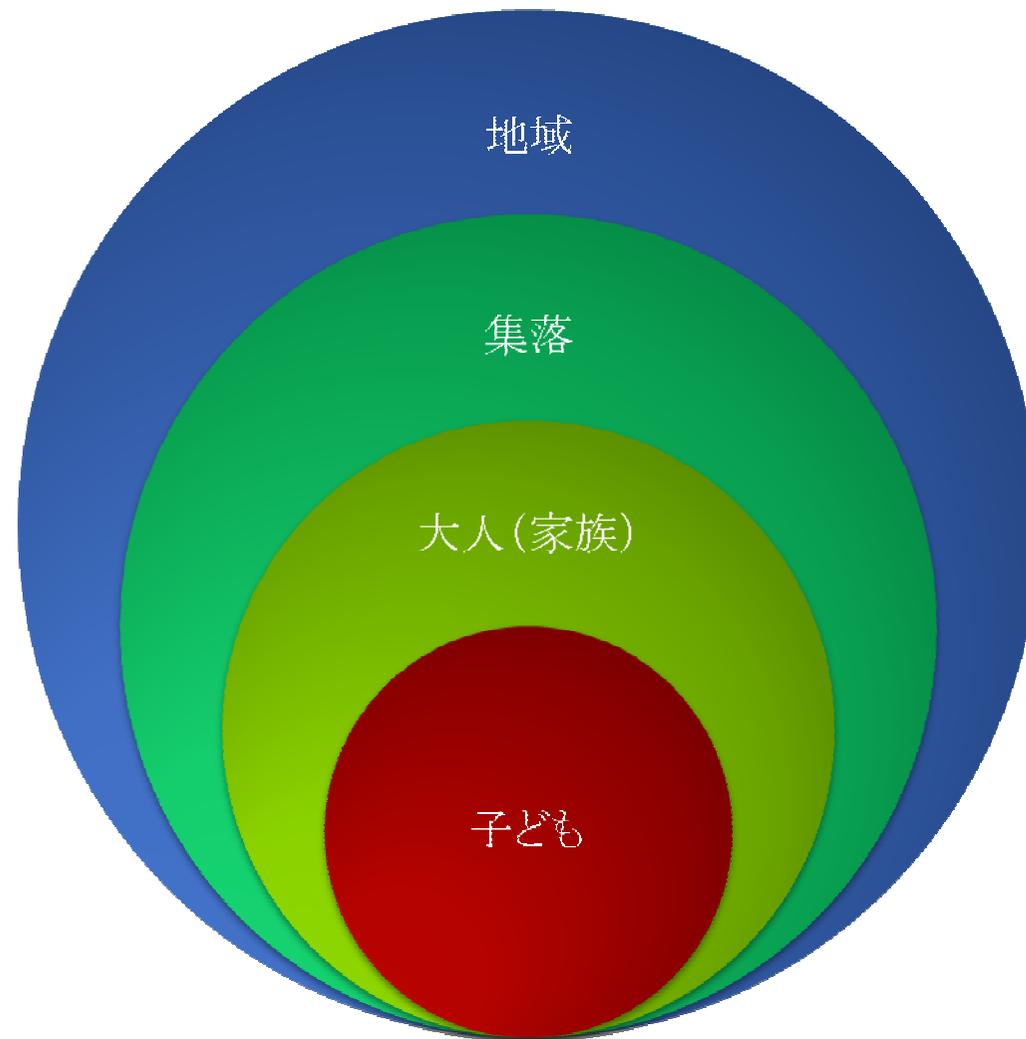


協同学習のリソースとしての地域に着目

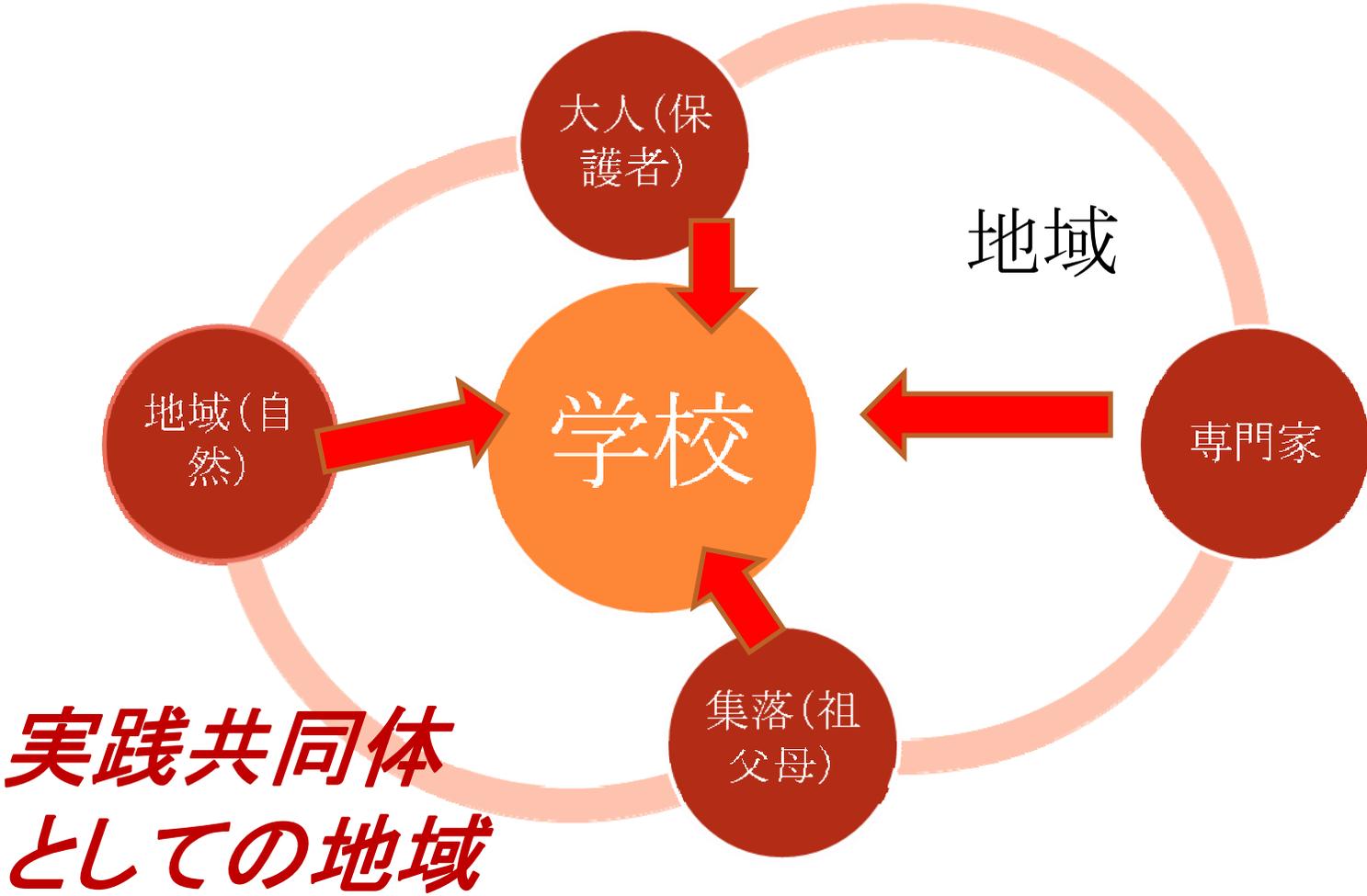
- ジーン・レイブ, エティエンヌ・ウェンガー
- 「状況に埋め込まれた学習」
 - 学びの構造
 - 「多様な成員をもった, 公的な, あるいは隙間に生じる(複層的な様々な共同体の入り混じる)実践共同体による正統的周辺参加である」とした。
- 共同体としての地域の重要性
 - 共同生産性を有していた時代, 地域にはお互いを育みあう実践共同体としての能力があった。



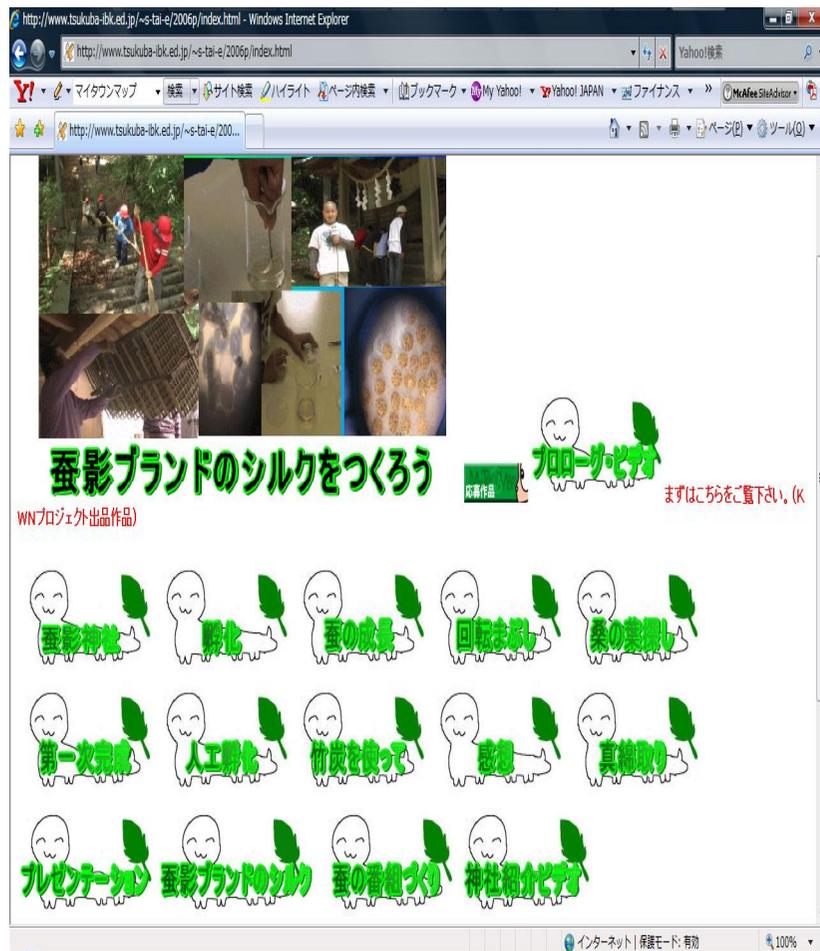
昔の地域(生産協同性を有していた時代)



協同学習のリソースとしての地域



2006年度実践「蚕影ブランドのシルクをつくろう」



- 蚕影山神社を中心とした活動
- 養蚕体験
- 地元の経験者との交流
- 人工孵化
(生物資源研究所指導)



共同体参加の視点から見た二つの問題点

- 責任のない浅い体験
 - 本来24時間関わるはずの養蚕活動の一部しか体験していない。しかもそれを生活の糧としていた生産者とは違い、何の責任もない浅い活動に終わっている。
 - 万が一失敗しても、子どもには問題がない。参加＝責任
- 教師(学校)によるフィルタリングの問題
 - 教師のフィルタリングが、地域からの学びを学校共同体特有のものに変えてしまい、地域を感じるできない。
 - 人工孵化の問題
 - 祖父母の姿勢(かわいい孫のために手伝うというもの)

学校の中に持ってきてしまうことは、どんなに頑張っても、学校にある他の活動と同じになってしまう。



デザインのための二つのポイント

- デザイン I (ホームグラウンドからの交流)
 - 地域の交流対象者は、自宅や、いつもの活動場所にいれば、地域の共同体としての振る舞いが学校の共同体にはない刺激を与えてくれるのでは
- デザイン II (直接対話)
 - 直接対話によるリアルタイムな交流が、教師のフィルターの影響を受けないコミュニケーションを生むのでは



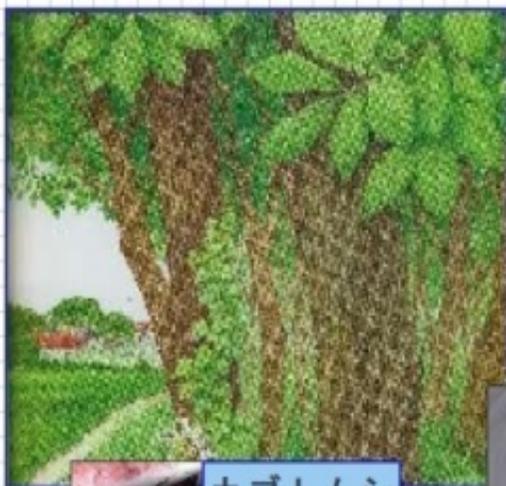
研究の実践

- 小学校3年生 11名(つくば市立田井小学校)
- 理科「こん虫のすみか」
- 交流手段として、「Kneading Board」(同期型CSCLシステム)とSKYPEを用いる。
 - ①KBを用いて、単語作成, すみかの予想
 - ②家での家族同伴での虫調査
 - ③家庭からのKBによる結果の書き込み デザイン I
 - ④学校でのKBによる結果の書き込み
 - ⑤地域ボランティアとの交流 デザイン I デザイン II



家庭からのKBの書き込み

木にいる虫



せみ

たくさん写真があ
ってすごい！早
くみんなに見せた
いですね。(中)



カブトムシ



ななふし

連絡コーナー

[戻る](#)

連絡コーナー

8月25日から8月28日まで、大学停電によるサーバーメンテナンスのため使えなくなります。(8/21)

何か質問等がありましたらここに書いてください。

今年は、セミの当たり年だそうです。本当ですかね？(7/31)

しつもんではありません。

びっくりしたことをかきます。

8月2日にエキスポセンターに行ったら、せみがうるさくてびっくり。木をみたらたくさんのせみのめけがえらがあつてまたまたびっくり。こんなにたくさんのせみのめけがらやせみのなく声をきいたのはじめてでした。

いっしょにいったともだちは、せみのめけがらをりょう手にもちきれなくてお母さんにもってもらい、たくさんおうちにもちかえりました。(8/8)

それはすごいですね。やっぱりセミの当たり年なのかもしれません。アメリカには17年ゼミがいて、17年間地中にいたセミが、いっせいにあらわれる年があるそうです。すごすぎるかいとか。ジャンボジェット機なみだそうです。(中)(8/13)

いろいろな種類昆虫がいるのがわかりました。これから運動会の練習で忙しいだろうから、続きは運動会が終わったらやろうね。(中村)(9/3)

近所に住む、山の生き物に詳しい大沢さんに、夏休みにのせてくれた写真にコメントを書いてもらいましたぜひ見てください。

地域ボランティア 大沢さんのページにあります。

学校ホームページの動画ニュース「山の生き物」には、大沢さんに行った筑波山のたんけんの様子が撮影されています。ぜひみてください。(中)(9/4)

こんにちは。
茨城大学の録木です。
わたしは、つくば市の並木というところに
すんでいます。セミはまいとし、とても
うるさいです。

田井小のまわりでは、そんなにセミはな
かないですか？林が多いので、セミがおお
いようにおもいますが、ふしぎですね。

8/20 @千歳空港
中村先生と一緒にです。



地域ボランティアからの書き込み



ナナフシは足が取れやすいので注意してください。飼ってみるとおもしろいですよ。たまごをうみます。



後ろばねのもようを見ると、種類がわかります。たぶんオオカマキリだと思います。体が細いので、オスかな？



どんななき声だったかな？これはミンミンゼミだと思います。羽がとうめいなことと背中が緑色なのがとくちょうです。なき声があるととってもわかりやすいんですよ。

[戻る](#)

近くの山で見つけました。



タテハチョウの仲間木で汁を吸うチョウもいるんですよ。



マユタテアカネ



「こん虫」のすみかの予想

- (大日本図書 たのしい理科 3年)

[戻る](#)



草にいる昆虫は？

草むらにいる昆虫

スズメバチ

バッタ

バッタ



ウマオイ

いろいろな種類があるね。これから運動会の練習で忙しいだろうから、続きは運動会が終わったらやろうね。(中村)

クモ

カマキリ

バッタ

カマキリ

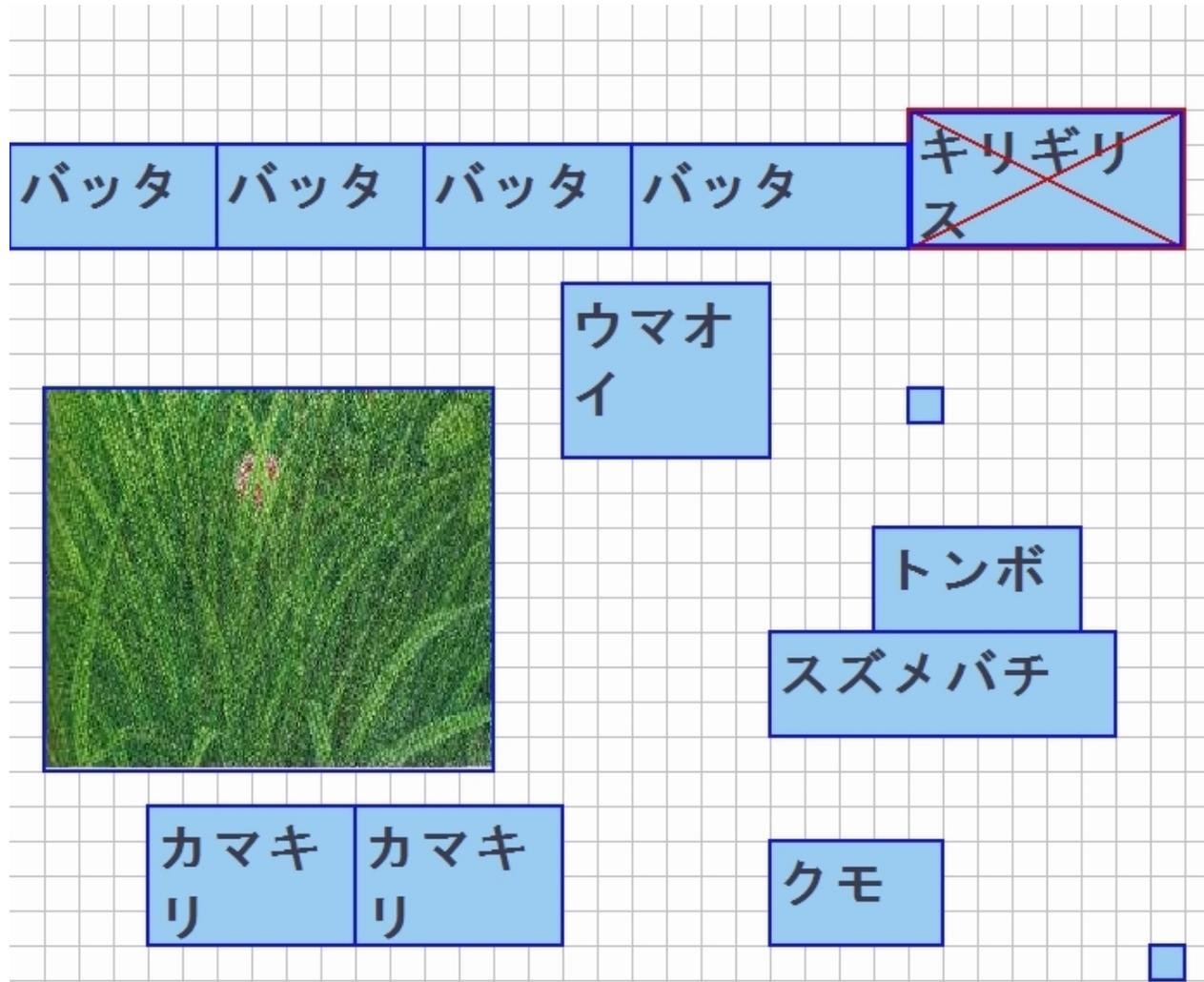
キリギリス

バッタ

トンボ



草にいる昆虫の仲間わけ



地域の共同体を意識した活動

地域からの活動

③ボランティアの参加

②家からの書き込み

①家族での虫探し

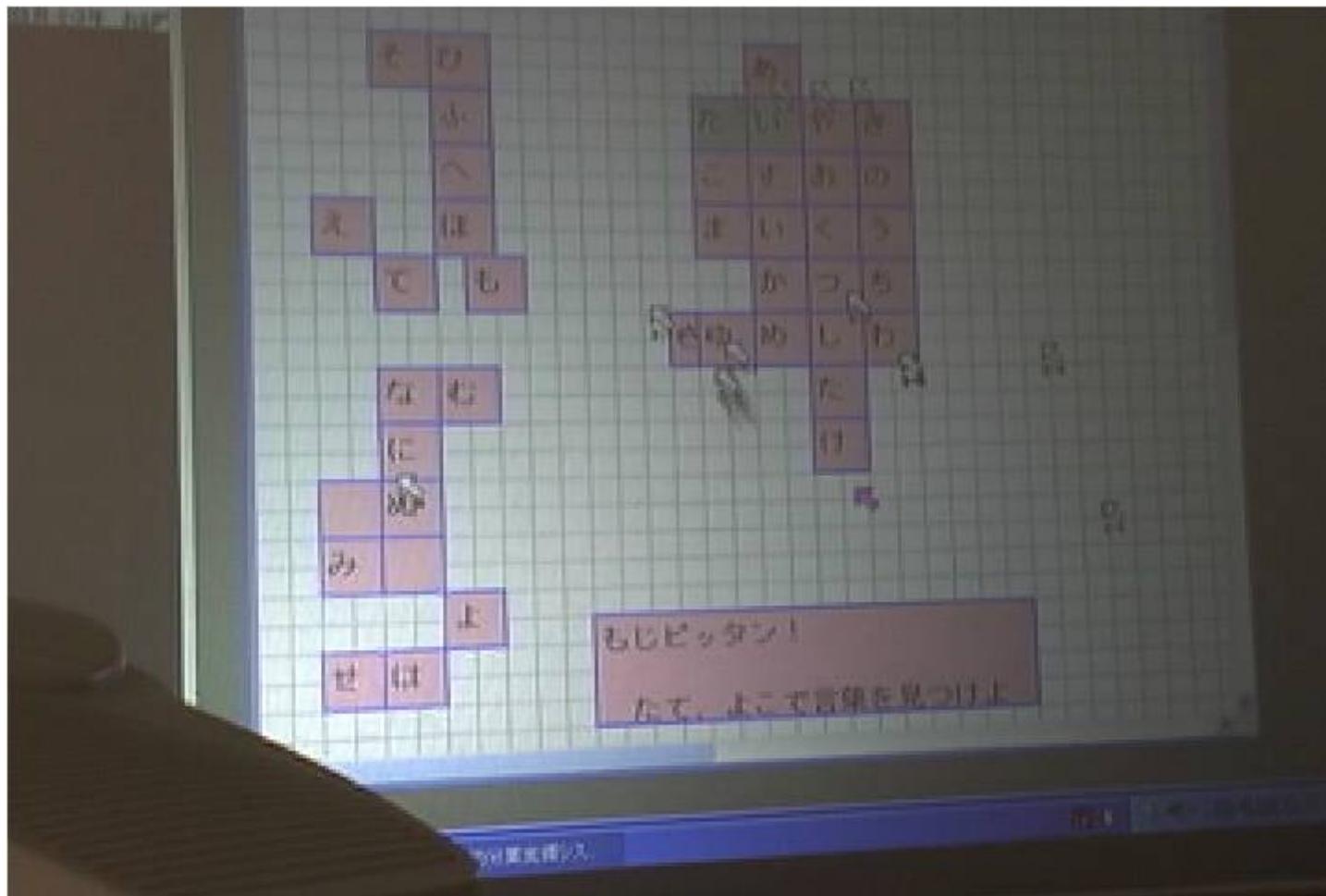
すみかを予想しよう！

昆虫はどこにいた？

どうして草はらにいますのかな

< 学校での活動 >

考察: デザインⅡ (直接対話) の効果 最初の授業



評価 デザインⅡについて

男児Aの変化を追う <最初のKB実践>

- 女児B:「ねえ。だめだよ。」
- :「だめだよ。A君。」
- (男児Aは、他の子が作った文字を取って自分の単語にくっつけてしまう。そして数分後)
- 男児A:「先生、そこの班がじゃました」
- (画面上で、「さ」と「ゆ」のタイルが重なってしまう。)
- 筆者 :「「さ」の人が最初です。「ゆ」の人は動いてください。」
- (数分後、また文字が奪われる。)
- 女児B:「A君たち、うばわないでよ。「あさ」ってできたのに・・・」
- 男児A:「だっておれだって、「さめ」の字にしたのに」



考察：直接対話の効果 地域ボランティアとの協同作業

- 協同作業の様子をあらわした動画
＜児童の個人情報保護のため，割愛します。＞



男児Aの変化

<地域ボランティアとの交流時>

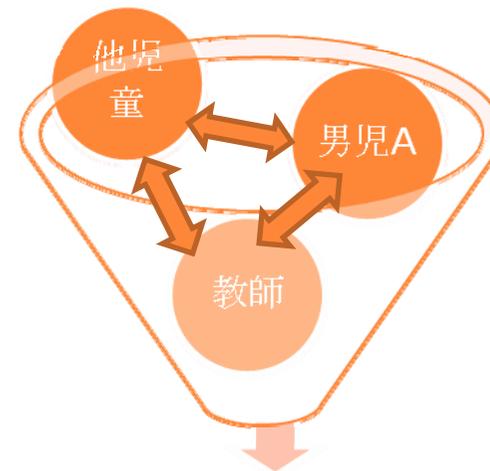
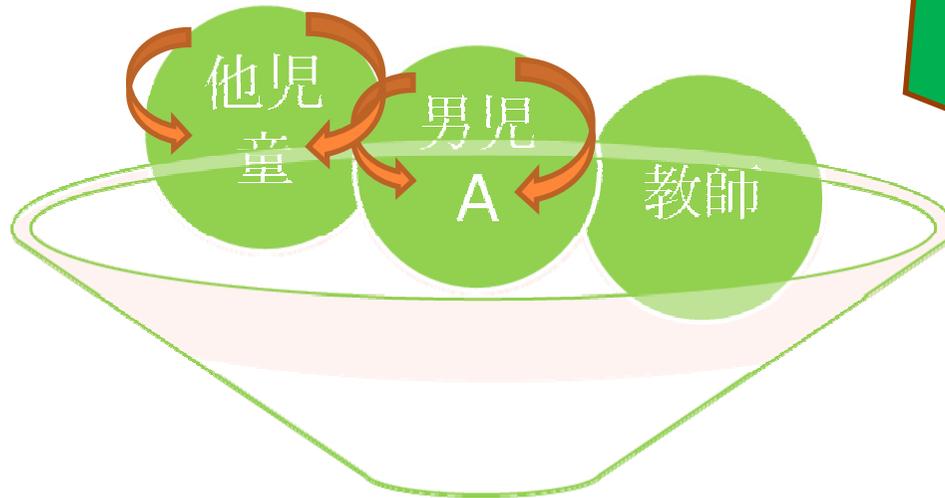
- 筆者 : 「～はどう思う。」
- 男児A: 「〇〇かなあ・。」(声が小さく, 筆者まで聞こえない。筆者はそれ(答えようとしている様子)が分らず言葉で遮ってしまう。)
- 筆者 : 「わからないかな。・・・」
- 男児A: 「ねえ, 言っていていい?」(周りの子に同意を求める。)
- 女児B: 「うん。いいよ。」

男児Aの発言が, 自由奔放な発言から, グループを意識した発言へと変わっている。



評価 デザインⅡについて

地域との
直接交流



学校固有の共同体

学校固有の共同体の変化

地域との交流は、知識の伝達だけでなく、
その関係性が変わることによる学びの変化に大きな意義がある。



今後の課題

- ホームグラウンドからの交流の評価
- 教師のかかわり方の明確化
- 交流範囲の拡大

